

横浜市国際局国際協力課

「食べる」から世界を考えよう！

目的：世界の10人に1人が飢餓状態にあることを知り、世界の栄養状況の改善のために活動する国際機関の役割について学ぶ。一方で先進国の食品ロスの現状について知ってもらい、今日から自分たちにできることについて考えてもらう。

実施日時：8月17日（水）

実施会場：横浜国際協力センター 6階

Y-PORTセンター公民連携オフィス「GALERIO（ガレリオ）」

参加児童数：31人（午前回、午後回合計）

プログラム内容：

- ◆食料関連国際機関代表挨拶（FAO駐日連絡事務所長 日比絵里子）
- ◆アイスブレイク（食に関するクイズ）
- ◆「栄養から考える飢餓」（国連WFP協会）
世界の栄養状況と、世界の人々が十分な栄養が取れるように取り組むWFPの活動について学ぶ
- ◆「食品ロス削減の取組」（横浜市資源循環局）
日本と世界の「食品ロス」の事情について知り、今日からできることについて学ぶ
- ◆振り返り会
学んだ内容を受け、グループワークをし、発表

当日の様子



FAO日比所長による、「食べることは世界と切り離せない」という講話が印象的でした



世界の飢餓状況と国際機関の仕事についてWFPの例から学んでいます



日本・横浜市の食品ロスの現状を知り、食材救出ゲームで食材を捨てない方法を考えました



休憩時には市内・横浜国際協力センター入居の国際機関の資料コーナーも人気でした

振り返り会

以下の2つのテーマについて話し合い、たくさんの意見が出ました！

◆ 栄養が足りていない人に栄養がある食事を提供するためにできることは何だろう？

- ・募金やチャリティーイベントに参加する
- ・収益の一部が支援に充てられる商品を選ぶ
- ・食料の提供だけではなく、農業を教える（生産の向上）

◆ 食品ロスを減らすために、今日からできることは何だろう？

- ・好き嫌いをせずに残さず食べる（食べきれない量を買う、頼む、作る）
- ・フードドライブ、ローリングストックを活用
- ・調理の際に廃棄部分を最小にする
- ・冷蔵庫の中身を整理する

振り返り会ではグループごとに自分たちにできることを話し合って発表しました！



プログラムを終えての感想

主催者

近年SDGsについては小学校の授業で扱われていることから、子どもたちにとっても関心のある分野であると参加者の様子、感想から感じた。各自自分なりの意見を持っており、グループワークは多様な意見を知る良い機会になると思った。

今後も横浜国際協力センター入居の国際機関と連携して、子どもたちに興味をもってもらえる企画を作りたい。

学生コーディネーター

◆子どもたちのイベントへの積極性や前向きな思考にとっても驚いた。話を前向きに聞く姿勢や問いに対しての積極的な発言は印象に残ったとともに、自分自身も素直に見習うべき点であると感じさせられた。子どもたちと同じような視点や温度感で話すことが大切だという国際機関の方のアドバイスがとても勉強になった。たくさんの人の前で話す難しさや子どもたちから得た刺激を今後の学生生活に生かしたい。

◆小学生に伝わりやすいように行うプレゼンテーションの難しさを学んだ。イベントの内容自体からも吸収できることは多く、改めて考えさせることばかりだった。今後、イベント企画をしたり、大人から幼い子どもまで幅広い層を対象にしたりする中で、今回の企画から得たことを糧に頑張っていきたいと思う。